



The Y's MEN's CLUB of

もりおか



<VOL127.2018.8>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

国際会長	Moon Sang Bong (韓国)	「私達は変えられる」
アジア地域会長	田中 博之 (日本)	「アクション」
東日本区理事	宮内 友弥 (武蔵野多摩)	「為せば、成る」
北東部長	涌澤 博 (仙台青葉城)	「チャンス到来、我ら北東部から世界へ」
もりおかクラブ会長	三田 庸平	「繋がりを大事に、見据える世界の扉」
		副題「ワイズの明るい未来を見つけましょう！」

今月の聖句 マタイによる複音書9章17節



「新しいぶどう酒を古い革袋に入れる者はいない。そんな事をすれば、革袋は破れ、ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長持ちする。」

会長	三田 庸平
副会長	長岡 正彦
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	浅沼 慧 (しどう)
	中村 渉 (チャン)

9月定例会のご案内

日時 平成30年9月8日 (第2金曜日) 18時30分
 場所 ジャーラン ジャーラン 4,000円
 通常の定例会です。
 第二例会 9月14日(第3金曜日) 18時30分
 場所 天神町薬局控室

三田新会長巻頭挨拶



三田新会長

会長という立場になり、早くも1ヶ月がたちました。盛岡もジメジメとした気候が続いております。先日は仙台で行われた合同納涼例会に参加してきました。仙台の人の多さに

「都会だな・・・。」と感じてきました(笑)さて、もりおかクラブもジメジメとした気候に負けじと元気に活動しております。

しかし熱中症という怖い症状にならない事を祈りつつ活動しています。水分補給の大事さを実感しております。今月は、さんさ踊りにて富士宮焼きそばを販売いたしました。4日間で最終日につれ、リピーターも含め完売となりうれしさのあまり大騒ぎいたしました。ファンドの一つとして屋台の出せるイベントにも出せたらと考えているところです。皆さんも期待してくださいね。また、今月末には盛岡YMCAの夏の打ち上げにも参加させて貰いました。ワイズのメンバーも混ざり、元気を分けて貰ってまいりました。盛岡YMCAとの交流もこれから、

まだまだあるので、ワイズとして多くのメンバーが参加してサポートできたらと考えています。

チャリティーラン・バザーが控えているので、盛岡YMCAとの交流やサポートできる機会を大事にしていきたいと考えております。

もりおかクラブはまだまだ、少人数なので会員増強にも力を入れるべく、それぞれがアピールしている所なので、少しずつ増やして明るいクラブ・活気あるクラブを目指して行きたいと考えています。

8月納涼定例会の報告

平成30年8月10日(金) 三寿司菜園総本店にて開催 三田、井上、井上優子、大関、及川、古澤、中原、魚住、千葉、濱塚、浅沼(敬称略)。ゲスト、伊藤 陸さん(ショッカー)、以上12名の参加で開催されました。

先月キックオフとなった2018年～2019年ワイズメンズクラブ、様々報告があり着実に歩みを進めております。今月は、久々に及川メンも参加、ワイズメン・メネットの懐かしい話から今流行りの話まで、納涼例会らしく、豪華な食事とたくさんの笑い声に包まれ、つついお酒も進む例会となりました。

もりおかクラブファン、富士宮やきそば販売

8月1日から4日までの4日間、盛岡さんさ踊りのお祭り期間中に合わせて大型出店販売を行いました。場所は内丸教会。教会の入り口に販売ブースを設けてやきそば販売するという事で教会員の方々から理解を得られるのかとても心配しましたが、盛岡 YMCA や、もりおかワイズメンズクラブのファン資金ということで了解していただきました。

夜間の営業になりますので、明かりや飾り付けなど出店の準備に知恵と仕掛けに苦慮しましたが、教会のクリスマス用のイルミネーションやハロゲンランプ 4 台などで照明は完成、虫が入らないようにやきそばの焼台は暗い所に設置、調理開始です。

午後 5 時、販売開始。全く売れない、まだ人通りが少ないからだと言いつつどんどん焼き増し、販売テーブルの上にパックが山積みになりました。販売目標は100食、6時のお祭り開始で人通りが徐々に増えて、販売数量は少し増えては来ましたが、思い描いた販売状況にはならず、時間が過ぎていきました。この間売り子さん方の声かけが休みなく通りに響き渡りました。特に中原陽子牧師の声は通りが良く、心地よいものでした。なんと約80食は販売しましたが、目標には届かず2日以降不安な気持ちになりました。

2日目、昨日同様とても順調とは言えません。余ったパックを教会の2階で YMCA キャンプレクレーションの準備をしていたリーダー約8名にお土産として差し入れたりして焼き上げた在庫を処分。おいしい、どうなるのさ。不安がますます募る。

3日目、4日間の販売目標は400食、今日からが勝負です。するとなぜだか、販売開始から順調に販売数量が上がって行くではありませんか、この日からお休み所へお客様を誘導して、教会のトイレを見物客に開放、小さな子ども連れの客様が一休みしながらやきそばを食して行きます。その他にも「あれ今の人、

昨日も買ってくれたよね。」なんとリピーターが訪れてくれていました。

4日目、さあ最終日です、頑張ってください。4日目となると少し疲れも出て来ましたが、頑張りました。順調な販売が続きます。ついに雨が降り出しました。雨は最悪と思っていたのですが、お休み所と、トイレの開放でなんとこの雨が幸いしたのです、テーブルにお客様の姿が絶えることはなく、雨宿りの間に焼きたてのパックを追加で食して行くお客様。販売は順調です。お祭りの終了時間が近づき、残り5パック位。売り子さんが400円にディスカント、最後のお客様が全て購入してくれて完売です。お疲れ様でした。4日間の出店ご苦労様でした。頑張りました。2日目までは村上さんが作った冷凍パインが子どもたちに人気があり、3日目からは、三田会長提供のビールとソフトドリンク、大量に仕入れた富士山の天然水もすべて完売です。初日2日目の動きの悪さを3日め4日目の頑張りで挽回できました。皆様ご協力ありがとうございました。



売り子さん、元気いっぱい。いい写真ですね～

2018年度、第一回北東部評議会に参加して

三田庸平会長

北東部会の評議会に始めて参加させて頂きました。多くの方に名前を覚えて貰えたらという思いもありました。評議会の中で、各クラブの会長によるクラブの主題・副題・活動方針などが発表されました。

私自身、盛岡の会長として皆様の前で発表させて頂きました。

正直、緊張していた為、皆さんに伝わっていたかは、分かりませんが……。精一杯思いをこめて、お話しをさせて頂きました。もりおかクラブの主題・副題・活動方針は、もりおかクラブが輝きを放てることを祈って考えました。もりおかクラブの未来が明るく活気あるクラブになることを祈るものです。

評議会の後は、懇親会も行われました。食事をしながら様々な方と交流し、実りある時間を過ごさせて頂きました。

料理が並びました。食事中にも、色々なクラブの方と交流し、様々なお話しが出来た事がすごくうれしく思っています。

余興では、カラオケ大会が行われました。各クラブから代表がでて歌いました。もりおかクラブからは、大関メンが2曲・井上夫妻が1曲歌いました。課題曲として出された「居酒屋」の井上夫妻のデュエットで、影で大関メンが歌うと言うサプライズで勝負いたしました。結果は惜しくも2位でした。西日本豪雨災害の募金を献金し納涼例会は終了です。なかなか会えない人たちと交流できて楽しい時間を過ごせてよい時間でした。盛岡も負けないように元気に活動していきたいと感じて帰ってまいりました。

ご苦労様でした、楽しかったようで何よりでした。

宮城4クラブ、もりおか合同納涼例会に参加して

三田会長、大関メン

8月21日に仙台で、仙台3クラブ、石巻広域クラブ、もりおかクラブ、5クラブ合同納涼例会が開催されました。もりおからは、井上メン・井上メネット・大関メン・濱塚メン・三田の5名の参加でした。久しぶりの仙台、人、車の多いこと息が詰まる思いで、静かな盛岡のほうに私にはあっているなとつくづく思いました。

例会が始まりました、もりおかクラブの三田会長が開会点鐘です。各クラブの会長から近況報告があり、三田会長からはさんさ踊りの期間中に富士宮やきそばを出店し、盛岡 YMCA、もりおかワイズをアピールし、好評のうちに販売をしたこと報告してもらいました。ビュッフェ形式・飲み放題。お寿司・揚げ物など様々な

「ブリテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

8月の出席率	10/14	71 %	ゲスト 2名	ビジター 1名	メネット 2名			
メーキャップ	1	名		7月切手	10 g	累計	298 g	
8月のにこにこ	31,000	円	累計	40,500 円	7月プルタブ	0 g	累計	22,350 g
8月 石鹸	1,610	円	累計	1,610 円	りんご	0 円	累計	円
8月 献金		円			ファンド合計	34,410 円		

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

8月のハッピーバースディ 8/2 古澤 メン 8/29 井上メン 誕生日おめでとうございます。

ああ、体操協会もか。いいかげんにして欲しい。

日本のスポーツ会はどこまで腐食が進んでいるのか？、今回体操協会の暴力やパワーハラスメントがテレビのワイドショーを中心に話題に上がっています。柔道界は暴力事件で組織の改革が進み、やっと選手の力が発揮できるようになりました。レスリング協会はパワハラにより、選手の力が発揮できなくなりました。アジア大会の成績を見ても期待を裏切っています。大相撲の横綱による暴力事件、力士による付け人への暴力事件、当該力士は処分を受け引退したり、大幅な降格を余儀なくしています。アメフトの違反タックル事件により炙り出された権力者の横暴、ボクシング協会の権力者への反乱による引責辞任もありました。そして今回、体操協会内部の選手の移籍横取り(内容は違うかもしれませんが)

やっと日本のスポーツ競技力の向上を目指して多額の税金を投入して来た結果ロンドンオリンピックの頃から結果が出始め、強い日本のスポーツ競技を楽しみにしていました。その後発覚した不祥事はとても選手第一主義とは思えません。昔の栄光や、現在の地位確保にしがみついた大人たちが現役選手の足をひっぱり、選手が競技以外の所で悩み苦しんでいたと思うと胸が苦しくなります。私が子供の頃、アジア大会では日本は敵無し

でアジアの王者を満喫していました。その後、中国や韓国にどんどん追い越され、アジアでのスポーツ競技力は3位まで落ち込んでしまいました。スポーツ競技力の向上は即効性的の方法ではなく、長い年月を必要とします、それがやっとな芽を出し、大きく成長しようとしているのに、現在吹き出している数々の問題はいったい何なのか。選手第一主義を忘れているからです。こんな状態では、来る東京オリンピックが不安でなりません。

スポーツは勝つだけが目的ではないといいますが、日本のトップアスリートたちはオリンピックでメダルを獲得したいと本気で願っているのです。勝つスポーツ力の向上が求められています。選手のパフォーマンスを十分に引き出すことだけに目標をおいて、競技力向上だけを目指して欲しいものです。スポーツは楽しみながら、体力向上を目指して行っている方々が大部分です、そういう底辺のスポーツ愛好家がトップアスリートのパフォーマンスに期待して競技場やテレビに夢中になっている裏で、選手の足を引っ張っているのだと思うと本当に選手が気のどくで心が痛みます。

日本の古い体質の頭の悪い組織幹部や権力に服従している指導者を一刻も早く排除して明るい日本のスポーツ界になって欲しいものです。

東日本大震災アーカイブス、2012年7月掲載

「恋し浜」震災後のたくましい団結と復興への歩み

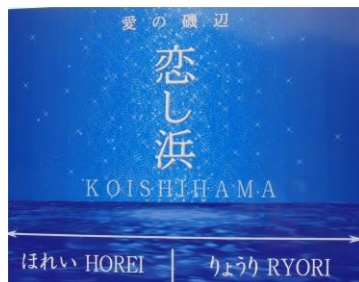
「男の人だ(たち)、集まって。昼ご飯だよ」避難所の公民館に、お母さんたちの元気な声が響く。震災発生以来、総勢約80人の共同生活を切り盛りしている。まるで大家族のようだ。



大船渡市三陸町綾里の小石浜地区。小さな湾で大半がホタテ養殖を営む

30世帯が、地震とともに公民館に集まった。「津波で8軒被災したが、全員が無事。大勢が死んだ明治の大津波の教訓で、すぐここに集まると決めている」多くの家も高台にある。20人余りの80代も逃げた。山間の小石浜はかつて、誰もが綾里の町ま

で2時間の険路を歩いた。「綾里の地区対抗運動会で常に一番だった」。自慢の健脚ぞろい避難にも生きた。「あんだごで、いね人は？」と確認を終えるや、直ちに家が壊れた人もそうでない人も一緒に避難所生活が始まった。米やみそ、冷蔵庫の食材や水産物、灯油やまきストーブ、ガスボンベも持ち寄り、集落孤立にもびくともしなかった。



「恋し浜」。ホタテ養殖に取り組む小石浜は地名をもじり、8年掛かりで全国に売り込んだ特産ブランド。集落を通る三陸鉄道の駅名住民の要望で「恋し浜」への改称を実現させ、縁結びの名所に育ててきた。高台の駅は残ったが、「養殖場や浜の倉庫、作業所はめっちゃめっちゃ。地でイ

ベントも開き、やっと波に乗ったのに。」だが、落ち込む間はない。水道が止まった後、集落の人々は「昔の生活に戻ればいい」と、かつての水源だった山の水を公民館まで引いた。そうした共同作業や家々の片付け、捜索活動に出る消防団の担い手も青年部だ。メンバーは20～30代を中心に8人。こんなに多くの後継者がいる浜はない。「一緒に育ち、育ててもらったから。海の仕事を选ぶのは自然なことだった」。高齢者、保育所や小学校の子ども、男たちの順に昼ご飯を出した後、お母さんたちがテーブルを囲んだ。毎日の献立づくりと食材選び、掃除、住民の健康のチェックなど、こちらも忙しい。「集落が家族同様なのは、やっぱり、皆が同じ暮らしをしてきたから」。ホタテ養殖は夫婦一体の作業。貝を育て、殻1枚1枚をひもにつけて再び海に入れ、2年でやっと収穫。水揚げは朝3時だ。「海に出る時はどこの家族も一緒。声を掛け合い、一服のお茶の楽しみも、悩みも苦労も、子育てや結婚の喜びも分かち合ってきたんです」大津波は、小石浜の稚貝、収穫期の貝を合わせ約一千万個を流したという。「舟も失い、再生は10年掛かり。共同作業で始めるしかない」。



い」。痛みを包む公民館のぬくもりに「恋し浜」の火は残ったのでした。ホタテ貝の養殖は、昨年末に共同で復旧。漁業者は秋の出荷を目指し、洋上での作業に精を出す。海中につるされたホタテガイはカーテンのよう。青の世界で静かに揺れる。同地区は震災前、450～500トンのホタテガイを生産。懸命の復旧作業を展開し、昨年末に北海道から入手した半成貝で養殖を再開した。100～150トンの収穫を目指す。「死滅もほとんどなく成育は順調。津波で湾内の水が動いた影響もあるかもしれない。震災後、県内各漁協は県の補助を受けてホタテガイの稚貝約880万枚、1年の養成で出荷できる半成貝約650万枚を他県から購入。大船渡市の吉浜漁協など沿岸南部で生産を再開しておりこの夏、いよいよ集荷開始。「恋し浜ほたて」をどうぞ召し上がれ。綾里漁協のHPから通信販売で購入できます。

区は震災前、450～500トンのホタテガイを生産。懸命の復旧作業を展開し、昨年末に北海道から入手した半成貝で養殖を再開した。100～150トンの収穫を目指す。「死滅もほとんどなく成育は順調。津波で湾内の水が動いた影響もあるかもしれない。震災後、県内各漁協は県の補助を受けてホタテガイの稚貝約880万枚、1年の養成で出荷できる半成貝約650万枚を他県から購入。大船渡市の吉浜漁協など沿岸南部で生産を再開しておりこの夏、いよいよ集荷開始。「恋し浜ほたて」をどうぞ召し上がれ。綾里漁協のHPから通信販売で購入できます。

開業140年の雑貨屋さん「平野商店」！

盛岡市本町通りにある、平野商店に行ってきました。盛岡の雑貨屋さんで有名なのが「ござ九」です。歴史を刻み現代に残る明治の時代のお店です。



広い間口、建物を見ると、古いという事が一目瞭然

今回行ってきた「平野商店」は140年の歴史です。なんとこちらも「明治時代」から歴史を刻んだ雑貨屋さんです。古い店構えや売っている商品などを見ると、なかなか古いお店であるとは思って気になっていました。今回、お店を訪問すると広い間口の奥は、生活空間になっていて、現在のご主人たちが生活している様子が店の中から伺えて、ちょっとびっくりしました。奥さんに了解を頂いて店の中を写真撮影できました。全く、飾り付けることのない商品陳列、いったい何年この商品はこの棚に並べられているのだろう？「山菜リュック」が一番、目を引きました。これも今年仕入れた物とは思えません。目立つ所においてはありましたが、そもそも山菜リュックなるものは初めて見ましたし、秋にはきのこリュックと名前を変更してもいいのかな？



ハイターや殺虫剤も並べてあります。混在してなんともいい雰囲気です。

右下にあるのが山菜リュックです。「高級純綿防水帆布」と書いてあります。言葉も読めませんといったいつ頃の商品なんだろう。虫網と魚網は真新しいので今年仕入れた商品でしょう。古い物と新しい物が



取れた、りんごで作ったりんごジュース

話を聞くと、りんご農家を営んでいるとのこと。早生の津軽とさんさを売っていました。少々店内の写真を撮ったり見て歩きましたのでさんさひとざると紅玉のりんごジュースを購入、すっぱさが

紅玉だと改めて理解しました。飾らないPOP、もちろん手書きです。この店にきれいなPOPは似合わないのは確かな事。

こんな店が話題にも乗らず、ひっそり営業を続けているなんて、盛岡の奥深さをしみじみと実感いたしました。もしかして超掘り出し物があるかもしれません。

編集後記

平野商店はかなりのインパクトでした。店内には新品の「わらじ」が吊るされておりまして、誰が買うのかな？お祭りの大名ぎよ列のときかな？などと想像しました。間違いなく今年編んだわらじです、非常に綺麗でした。もしかして稲作もやっていてわらも潤沢にありのでしょうか？



盛岡はもう秋です、行く夏を惜しんで最後の夏空かなと思い撮影した屋下がりの東の空です。この空は私が満月を撮影しているポイントで、昼間の空を撮影したのは初めてでした。